

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 24165：高度な 3 S「人材・技術」を活かした日本原子力の世界展開
(文部科学省)】

- 1 日時：平成 22 年 10 月 1 日 : 13 : 20 ~ 13 : 40
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、白石議員、奥村議員、青木議員
外部専門家 3 名(うち若手 1 名)
- 4 説明者：文部科学省 研究開発局 原子力課長 篠崎資志 他
- 5 施策概要

我が国が培った 3 S の経験・知見を活かし、原子力導入に不可欠な核不拡散/保障措置(Nonproliferation/Safeguards)や核セキュリティ(Security)から、原子力利用の後処理として不可欠な放射性廃棄物処理処分の安全確保(Safety)にかかる技術までの人材育成と技術協力において、「システム」型の原子力輸出に貢献する。

6 質疑応答模様

【白石議員】

高度な 3 S 人材は重要である。しかし、それと日本が世界進出できるかは別問題である。ストーリーにリアリティーが欠ける。

人材ニーズの規模は調査済みであるのか。ニーズに対してどういう支援をしていくのか。

【文部科学省】

原子力の国際展開において、文科省としては人材育成を役割として分担しており、様々な機会をとらえて各国のニーズを聴取しているところ。また、原子力機構では 10 年以上にわたって、保障措置等に関するアジアの人材を研修している実績がある。大枠でのニーズの汲み取りは行ったところである。また、総合支援センター構想の本格化にあたり、新規導入国のより詳細なニーズ調査を実施することとしている。タイ、マレーシア、シンガポール、来週からは、ベトナム、マレーシアなどについて調査団を派遣する予定である。

【奥村議員】

153 億という高額な要求である。

昨年対比倍額になった理由はなにか。廃棄物の処理については別施策で要求しているのか。

【文科省】

バックエンド部分が増えた。廃棄物でも、高レベルや低レベル、処分の方法でも多種多様であり、研究開発を行う対象が広い。また、廃棄物対策に関する施策は他に無い。

【奥村議員】

予算の大半は廃棄物処理技術開発ではないのか。

【文科省】

以前からバックエンド開発は既存設備の維持と、次の施設をつくっていくか(世界貢献含め)が両軸。

今後特に後者を進めるために、本施策に追加した。

長期的戦略で見つめた結果である。

【奥村議員】

放射性廃棄物については、世界以前にまず日本の大きな問題である。対国民への説明責任の方が重要なのではないのか。

【文科省】

国民に対して説明するための事業については別途行っているところであり、平成23年度も予算を確保してしっかりと取り組んでいく。それとは別の視点で、我が国の廃棄物処理処分の知見を活用する戦略である。

【相澤議員】

人材については国内でも深刻である。最近やっと大学院レベルで復活してきているところであるが、国内の人財育成についてはどういう見解なのか。このようなものでは不十分であると考えている。

【文科省】

今回新規ではないので説明していないだけであり、大学における人材育成をサポートする予算は確保している。また、今年度から国際的に活躍できる人材を大学・企業・財団で取り組んでいくプログラムをネットワーク化する事業を立ち上げて実施していくつもりである。